

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用事業
ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでいる

2. 総合所見及び特記事項

(総合所見)

「ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用」のタイトルで始められた本プロジェクトの、目的・ねらいは歴史学研究（日本近世史・対外関係史）に多大な貢献が期待される魅力的なものであった。史料集を作ることは容易ではなく、予算・マンパワーと時間を必要とするものであろう。研究体制において、代表者個人の努力には敬意を表するが、その負担があまりにも大きなものになっていたと思われる。史料集作りを進めながら、史料解釈を行なって研究成果を出し、一般向けシンポジウムなどで発信するという計画は、同時並行しながらの作業として困難を極めるものであったであろう。

史料集作りの意義は、史料集を用いて自らが史料解釈に基づく成果（歴史像）を発出することもだが、多くは幅広い研究者に利用してもらい多様な研究成果が生まれることに期待するところであろう。本プロジェクトは3年間で終了し、日文研の事業として継続するとのことであるが、是非史料集の公開段階まで作業を完遂し、多くの研究者がその成果を利活用することで、さらに研究が進展することを期待している。

(特記事項)

ハーグ国立文書館所蔵の平戸オランダ商館文書や東インド会社文書の撮影・翻刻・和訳の作業は、歴史学（日本近世史・対外関係史）にとって、重要な役割を持つ。この成果を誰もが利用できるように、出版・刊行などの仕上げが行われることを期待する。本史料集が公開されれば、研究代表者自身の研究の進展のみならず、今後、それを参照するその他多くの研究者によって新しい歴史像が創出されることになろう。